

『世界の明日を創る』人材の育成を目指す本校のESD

北海道登別明日中等教育学校

校長 岩田 一郎

担当者 小島 啓一

1 趣旨・本校のESD活動の特徴

公立学校として北海道初の中等教育学校である本校は、開校の精神を「明日を創る」とし、平成19年4月に開校した。この開校の精神のもと、①「高い知性」②「豊かな人間性」③「健康な心身」④「郷土愛と国際性」の4つを身に付けた生徒の育成を教育目標に掲げ、中等教育学校ならではの特長を生かした6年間の系統的な教育課程を編成・実施してきた。また、2009年10月には、道立学校としては初めてユネスコスクールとして認定され、本校の特色の一つである国際理解教育の一層の充実に努めてきた。アメリカ・ワシントン州にあるボッセル高校と姉妹校提携を結び、生徒全員が現地校を訪れたり、アメリカの生徒がたびたび登別を訪問して本校生徒と交流したりしているのも大きな特徴の一つである。さらに、平成26年度からは、「世界の明日を創る～未来のグローバルリーダーの育成」というテーマのもとで、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の5年間の指定を受けたことにより、食や農業に関する「課題研究」や海外フィールドワーク等の取組も加わり、取り組み内容もさらに多彩でグローバルなものへと進化した。

本校の国際理解教育は、コミュニケーションツールとしての外国語教育を重視しながら、異文化理解に関わる体験学習を6年間の教科学習、総合的な学習の時間、特別活動を通じて段階的・系統的に展開しており、これらの機会を生かして、異文化や自国文化の理解、国際社会の現状や課題への理解を深めている。加えて、これらの諸活動とユネスコスクールとしての活動の関連を図りながら、文化祭などでは、生徒会を中心とした「ユネスコ展示」により、ESDやSDGsについて生徒たちがまとめた内容や、本校のユネスコスクールとしての活動について地域に広く紹介している。さらには、平成28年度から「ユネスコ有志実行委員会」が有志生徒によって組織され、より柔軟に活動できるようになり、さらに多くの生徒がユネスコ活動に携わるきっかけとなっている。

2 活動全体計画…次ページ「ESDカレンダー（2018）」参照

3 活動事例

（1）教育課程に位置付けられた活動の例

- ① 地域ウォッチング…登別温泉について調査・取材し壁新聞を作成・発表（8-10月 1回生 総学）
- ② イングリッシュキャンプ…オールイングリッシュの生活・体験活動（7月 2回生 特別活動）
- ③ 道外見学旅行…福島県ブリティッシュヒルズでの語学研修（12月 3回生 特別活動）
- ④ 海外見学旅行（アメリカ・カナダ）…ホームステイや姉妹校訪問（12月 5回生 特別活動、総学）

（2）文化祭ユネスコ展示を通しての活動の例

- ① 貧困、戦争、世界遺産、食料と飢餓問題、教育等のテーマに関する展示、募金ブースの設置
- ② 売り上げを東日本大震災の被災地へ就学支援金として寄付する「AkebiTシャツ」の販売
- ③ 上級生が作った上記の展示を見て学んだことを1回生がワークシートにまとめる学習活動

（3）室蘭ユネスコ協会と連携した活動

- ① 書き損じはがき回収、世界寺子屋運動の募金活動への参加、地域フォーラムへの参加
- ② ユネスコ協会主催の海外スタディーツアー…これまでヨーロッパ、カンボジア、韓国など

(4) スーパーグローバルハイスクール関連の主な活動

- ① 日本および世界の食糧問題についての大学教員等による講演・ワークショップ（4・5回生）
- ② 課題研究・・・独自に設定したテーマでの研究および発表、日本語・英語レポート作成（4-6回生）
- ③ 海外フィールドワーク・・・5大陸での農業事情の視察とディスカッション、報告（4-6回生）
- ④ テレビ会議・・・オーストラリアの高校生との交流とディスカッション（4回生）

北海道登別明日中等教育学校 ESDカレンダー（2018）

月	回生	教科	行事	総学	他	行事および教科・領域	内容	活動の領域（下段は対応するSDGsの番号）									
								国際理解	自国文化理解	食料	郷土	共生社会	環境	教育	民主主義	その他	
								10	2 11	2	11	13 5 8	6 7 9 12 13 14 15	4	16	17	
4	1			○		オリエンテーション	本校の総合的な学習の時間（ESDを含む）について学ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
4	1			○		宿泊研修準備	異年齢交流で集団生活について学ぶ										
4	4			○		異年齢交流準備	下級生に集団行動の大切さを伝える										
4	4・5	○				SGH課題研究プレゼンテーション	1月までの間で自ら課題を設定し、調査研究を行う			○							○
4	5	○				SG家庭基礎（共生社会を生きる）	家族の機能や社会福祉制度、職業労働に関する基礎的な法律を学ぶ										
4	5	○				保健（生涯を通じる健康）	性意識と性行動の選択の重要性について学ぶ										
4	1-6		○			デンマーク大使歓迎会	日本や北海道・登別の魅力を伝え、デンマークの文化や価値観について学ぶ	○	○		○						○
4	1-6		○			対面式	学校の全体像について理解する（動機付け）										
5	1		○			宿泊研修	異年齢交流で集団生活について学ぶ										
5	3			○		日本紹介準備	日本の良さについて調査する										
5	3	○				社会（2度の世界大戦と現代）	第二次世界大戦と戦後の日本の発展と国際社会	○	○			○	○	○			
5	4		○			宿泊研修（異年齢交流）	下級生に集団行動の大切さを伝える										
5	4	○				SGH講演	北海道農政庁講演（北海道の農業について）										
5	1-6			○		登別温泉「アイ英語ガイド」	登別温泉を訪れる外国人を英語で案内する（10月まで毎月実施）	○	○								○
6	2		○			イッパツリッパツ	オルイッパツで生活を行う	○									
6	5			○		小論文学習	学びの意義、自分と社会、労働の意味について学ぶ										
7	1		○			文化祭ユネスコ展示	137展示（環境問題、格差の問題等）の展示物から学ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7	3	○				理科（エネルギー資源とその利用）	様々な発電方法、137種 資源の確保と環境保全の両面の重要性を学ぶ										
7	4	○				現代社会（民主政治とは）	生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等、法と規範について学ぶ										
7	4	○				SGH講演	JICA講演（元JICAボランティアの経験について）										
7	4-5			○		大学生との英語キャンプ	英語運用能力を高め農業や食の安全について理解を深める	○	○								
7	1-6		○			文化祭	異年齢やHR活動から役割を果たす										
8	1			○		地域カッチャ 準備	地域を題材に課題解決能力を育てる										○
8	2			○		職業調べ	職業に就くための方法について調査する										
8	4,5			○		アジア・ユース・サミット 2018	アジア各国の高校生と食育について理解を深める	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
8	4	○				SGH講演	JETRO北海道講演（日本社会に広がる外国の影響力）										
9	2	○				二度の世界大戦と日本	二度の世界大戦の頃の日本の政治・経済・社会・文化の動き	○	○								
9	3	○				理科（人間と環境）	人間の活動が原因となっている環境問題について科学的に考察する。										
9	3	○				理科（自然の恩恵と自然災害）	ハザードマップを正しく読み取り、災害への対応を考えることができる。										
9	4		○			小学生との英語交流	英語を教える方法を考え、授業を行い、成果や課題をまとめる	○									
9	5	○				SGH集約講演	複数の講師による農業、137種、環境等についての講演										
10	1			○		地域カッチャ	登別温泉地区での体験学習（見学・体験・イッパツなど）	○	○								
10	1	○				技術・家庭（環境に適した生活）	持続可能な社会のための環境への影響を考えた消費生活について学ぶ										
10	2			○		職場訪問	勤労観や職業観について調査する										
10	3			○		学部学科研究	上級学校の学びについて調査する										
10	2	○				社会（日本の自然環境）	自然災害と防災への取り組みについて学ぶ										
10	2	○				美術（美術の歴史）	7つのSDGsの作品より日本の美術の魅力と影響を学ぶ	○	○								
10	3			○		大学訪問準備	大学の学びについて事前調べを行う										
10	3			○		大学訪問	効果的に伝える方法を学ぶ										
10	4	○				SGH講演	帯広畜産大学教授による講演（持続可能な農業のための経済学）										
10	1-6		○			体育祭	異年齢やHR活動から役割を果たす										
10	1-6			○		地域との連携	「世界食糧デー登別大会」への協力と参加										
10	4・5			○		SGH海外フィールドワーク	オーストラリア（4回生）、タンザニア（5回生）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	1			○		北海道紹介	北海道調べから課題解決能力を育てる										
11	1			○		北海道紹介発表	効果的に伝える方法を学ぶ（ポスター・壁新聞による）										
11	2			○		職場訪問発表準備	効果的に伝える方法を学ぶ										
11	2	○				社会（日本の資源・137種・産業）	日本の資源・エネルギーと環境問題、工業、農林水産業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	3			○		数学、社会、家庭	英語以外の教科を英語で学ぶ										
11	4			○		宿泊研修（イッパツ）	北海道の企業と世界との繋がりを知る	○									
11	1-6			○		赤い羽根共同募金	137有志実行委員会と登別市社会福祉協議会の連携の活動										
12	2			○		職場訪問発表	効果的に伝える方法を学ぶ										
12	3			○		道外見学旅行	オルイッパツで生活を行う（福島県プリティッシュビルズ）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
12	4・5			○		海外見学旅行（アメリカ・カナダ）	アメリカ・カナダで英語研修を行い帰国後に4回生に向けて報告	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	3			○		SDGs調べ学習	グループごとにSDGsの関心のある分野について学ぶ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	4・5			○		SGH課題研究最終発表	自ら課題を設定し調査研究を行った内容についての発表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	1-6			○		書き損じハガキ回収	137有志実行委員会による「世界寺子屋運動」、室蘭ユネスコ協会と連携	○									
2	1	○				音楽（日本と7の音楽と芸能）	生活や風土とかわる音楽や芸能を鑑賞する	○	○								
2	2	○				技術家庭（環境に適した生活）	環境への影響とサステナブルクッキングについて学ぶ										
2	2	○				社会（北海道の地理）	北海道の地域的特色を理解する。	○	○								
3	2	○				社会・理科	日鋼室蘭製鋼所見学、青少年科学館体験学習	○									
3	3			○		SDGs調べ学習発表準備	SDGsの関心のある分野について調査する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	3			○		SDGs調べ学習発表	効果的に伝える方法を学び実践する	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3	4・5			○		SGH成果発表会	自ら設定した課題について考察したことをグループ毎に発表	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

4 成果と課題

2009年のユネスコスクール認定、また2014年から5年間のスーパーグローバルハイスクール事業（SGH）により、本校のESDの取組の幅はさらに広がり、質も高まった。SGH事業が今年度で終了し、SDGsへの注目が高まる中、既存の取組を生かしつつ、内容を改善し続けることが今後の課題である。